[成果情報名] 大豆後作における早生タマネギ「七宝早生７号」の収量性

[**要約**] 大豆後作の早生タマネギ「七宝早生７号」の栽培は、大豆の茎葉をすき込んでも栽培に影響はなく、12 月中旬までに定植すると５t/10a 程度の収量が確保できる。

[**キーワード**] 早生タマネギ、大豆後作、定植期

[**担当**] 総合農林試験場・作物園芸部・野菜科
[**連絡先**] 電話(代表) 0957-26-3330、(直通)0957-26-4318

[**区分**] 野菜
[**分類**] 普及

[**背景･ねらい**]

需要動向に即した米の計画生産を進める中、転作作物として大豆の生産拡大に取り組んでいるが、大豆－野菜の輪作体系が確立されていない。そこで機械導入による省力栽培が可能で、本県で古くから栽培実績があるタマネギを選定し、特に出荷数量の 85%を占める早生種の定着化技術を検討する。

[**成果の内容･特徴**]

１．大豆後作のタマネギ栽培は、大豆の茎葉を本圃にすき込んでも茎葉を除去した場合と収量は同等で、移植機の作業性も同等である（図１、表１)。

２．定植期は遅くなるほど収量および大玉階級の割合は低下するが、12 月中旬までは５t/10a 程度の収量が確保できる(表２、図２、図３)。

[**成果の活用面･留意点**]

１．転作地における大豆後作でのタマネギ栽培に活用する。

２．本情報は長崎県下で広く導入されている品種「七宝早生 7 号」を用いた結果である。

[**具体的データ**]

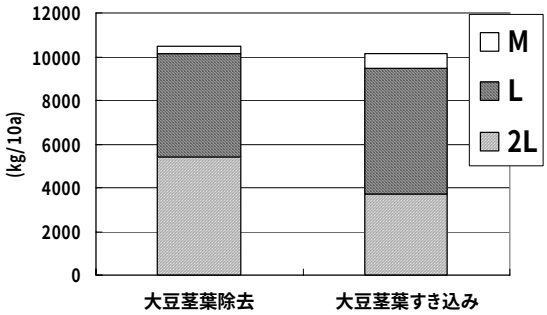

図１　大豆の茎葉すき込みの有無による収量の違い

表１　移植機作業性能

処　　理	作業時間 (50m 当り)	欠株率 (%)
大豆茎葉すき込み	11 分 43 秒	1.1
大豆茎葉除去	11 分 39 秒	1.3

作業時間に移植機の旋回時間は含まない

表２　定植期別の形状と球重

	球径 (mm)	球高 (mm)	球重 (g)
11 月下旬定植	84.7	91.0	312
12 月上旬定植	77.3	80.5	238
12 月中旬定植	71.7	77.0	207

２年間の平均値

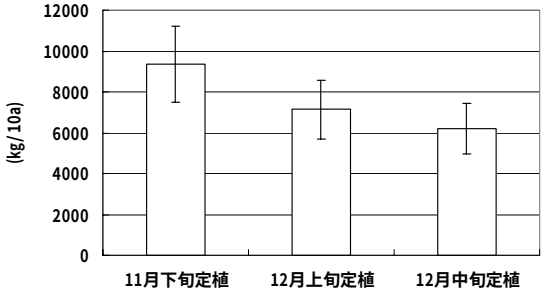

図２　定植期別の収量の推移
縦棒は偏差を示す

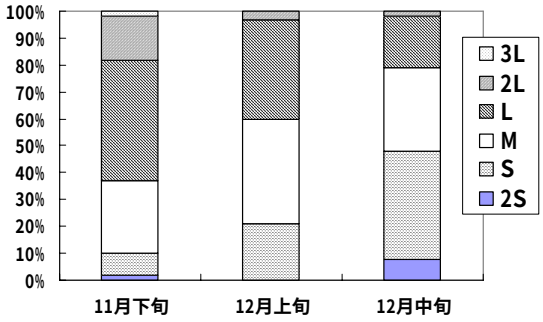

図３　定植期別の出荷規格割合

耕種概要
(1)供試品種：七宝早生７号
(2)育苗：慣行育苗（地床）
(3)栽植距離：畦幅 1.5m、株間 11ｃｍ、４条植え　農ポリ黒マルチ　(移植機：K 社半自動乗用型 KP-2TS)
(4)茎葉すき込み量 ： 250kg/10a(生重)　平成 14 年 11 月 18 日すき込み
(5)播種日　：　9 月 26±1 日
　定植日　：　11 月 27±2 日(７日ごとに定植)
　収穫日　：　4 月 26±1 日

[**その他**]
研究課題名：大豆・野菜体系による転作水田の持続的高度利用技術の確立
予算区分：県単
研究期間：2003～2007 年度
研究担当者：松尾憲一、大脇淳一